

高千穂郷・椎葉山の山間地農林業複合システム

～森林理想郷の伝統農林業と文化を未来へ繋ぐ～



世界農業遺産
高千穂郷・椎葉山地域
U.A.H.S. Takachiho Shibusen

世界農業遺産

平成27年12月認定

宮崎県高千穂郷・椎葉山地域

高千穂郷・椎葉山地域では、面積の約92%が森林を占める平地が極めて少ない状況下において、自然と調和した「山間地農林業複合システム」を構築してきました。そこには、農林業だけでなく、古来からの伝統文化を継承する強固な地域コミュニティが存在し、当地域のシステムの要となっています。

伝統文化



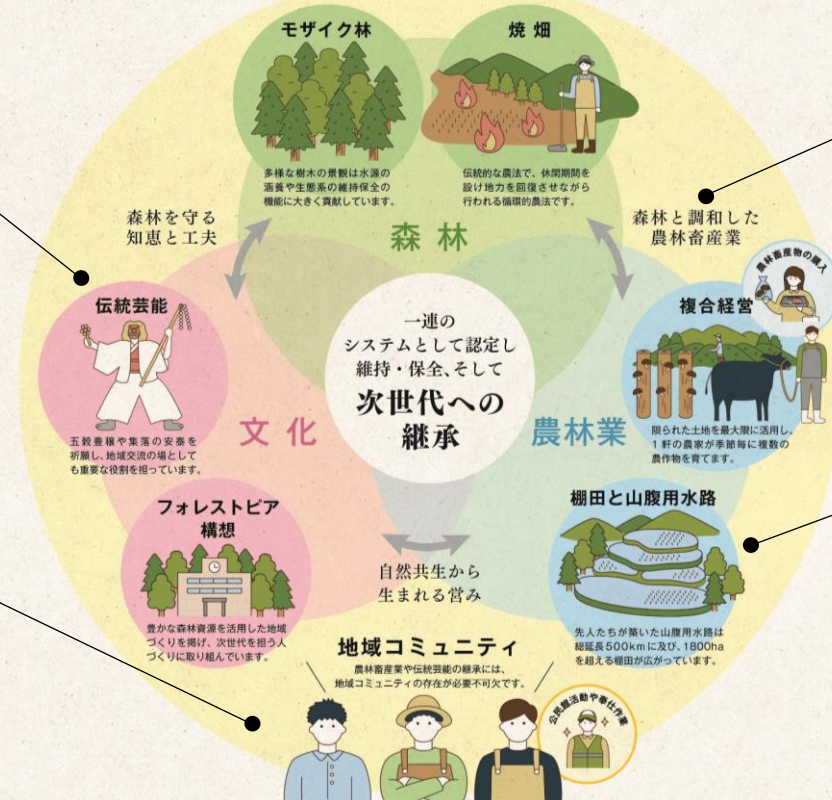
古来から生まれ育まれてきた伝統文化が今も息づいています。五穀豊穡や集落の安寧を祈願する神楽は当地域を代表する伝統文化で、約90の神楽保存会が現存しています。

地域コミュニティ



厳しい環境下において、農林業や伝統文化を継承するには、地域コミュニティの存在が不可欠であり、人々の手によって山間地農林業複合システムが成り立っています。

私たちの暮らしを支えている、高千穂郷・椎葉山の『山間地農林業複合システム』



複合システム



棚田での稲作、野菜・果樹・花卉の生産、林業、畜産など、土地や季節に応じて、複合的な経営が営まれています。また、椎葉村では森林と共存する循環的農業として焼畑も行われています。

山腹用水路



傾斜地にある棚田に水を確保するために、急峻な山腹に建設された山腹用水路。最古のものは、江戸時代中期頃に建設されました。総延長は約500kmになり、約1,800haの棚田に水を供給しています。

世界農業遺産認定による効果

戦略推進事業

・ 宮崎大学GIAHS研究会の発足

国立大学法人宮崎大学において、当地域の調査研究を行う「GIAHS研究会」が発足しました。当地域のシステムについての様々な調査研究を行うとともに、年に1回の研究成果報告会を開催しています。

・ 他地域との連携事業

熊本県及び大分県と連携し、2019年から3県合同でのPRイベントを開催しています。

・ 地域活力支援事業

本地域内の団体の世界農業遺産に関する活動（普及啓発活動、保全活動、特産品開発）を活性化させることを目的に、補助金を交付しています。

人材育成事業

・ 児童生徒交流事業

世界農業遺産をテーマとした児童生徒の交流事業を開催し、フットパス、釜炒り茶教室、世界農業遺産についてのグループワーク等を実施しました。

・ 世界農業遺産教育プログラム「GIAHSアカデミー」

高千穂高校および五ヶ瀬中等教育学校の生徒がGIAHSについて学び、その魅力を発信するとともに、地域への誇りと主体的な意識を育むことを目的としてGIAHSアカデミーを実施しています。さらに、WEBメディアを活用した情報発信や本地域の10周年記念シンポジウムにおいて「GIAHSユース宣言」を発表しました。



▲GIAHSアカデミーの活動風景

広報宣伝事業

・ PRイベント「パワーフードウィーク」の開催

宮崎市内のスーパーと連携し、2018年から毎年、世界農業遺産のPRイベント「パワーフードウィーク」を開催しています。当地域の特産品を使用した惣菜・お弁当等の販売や、直売所や道の駅等による店頭販売を実施し、世界農業遺産認知度向上と当地域への経済効果をもたらしています。

・ 大阪・関西万博神楽公演

本地域を代表する伝統文化「神楽」の魅力を世界に発信するとともに、神楽の次世代への継承につなげる活動とすることを目的に大阪・関西万博において、特別公演を行いました。

・ フォトコンテストの開催

本地域の世界農業遺産に関する写真を対象としたフォトコンテストを開催しました。90作品の応募がありました。

農林業関連主要指標（一部抜粋）

- 農林業新規就業者数：年平均19人（2022～2024）
- 農業産出額：年平均972万円（20221～2023）
- 肉用牛の飼育頭数：年平均9893頭（2022～2024）
- 水稻作付面積：年平均807ha（2022～2024）
- お茶の栽培面積：年平均109ha（2022～2024）
- シイタケ生産者の戸数：年平均625戸（2022～2024）
- 農泊受入人数：年平均539人（2022～2024）
- 焼畑実施団体数：累計9団体（2022～2024）
- 大学等と連携した研究事例数：年平均10件（2022～2024）